

2022 TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 参戦レポート① 東日本第4戦/西日本第2戦 @富士スピードウェイ



著：ささ子レーシング 土屋



大会概要

開催レース：2022 SUPER FORMULA 第6戦

開催場所：富士スピードウェイ（全長4563m）

参加クラス：TOYOTA GAZOO Racing YarisCup

東日本シリーズ第4戦/西日本シリーズ第2戦（以下ヤリスカップ）

日時：2022年7月16-17日（土曜日：予選、日曜日：決勝）

参加台数：116台（東西エントリー総数、うちCVTクラス除く105台）

大会公式サイト：<https://toyotagazooracing.com/jp/yariscup/>

結果概要

エントリー名：ケイズばんから制動屋Yaris

カーNo:335

ドライバー：土屋耕太

メンテナンス：ケイズファクトリー

前日専有走行：2分31秒599（C組11位）

予選：2分27位297（C組7位, 総合21位）

決勝：14位（決勝進出54台中）

ベストタイム：2分15秒483（決勝中、総合4位）



116台というエントリー数のうち、決勝進出54台中14位でフィニッシュ致しました

7/15 AM 特別スポーツ走行

今回の東西合同富士大会がささ子レーシングとしての2022年シーズン開幕戦となります。

初日は大雨のセッションから走行が始まります。
土曜日の予選を突破することに照準を合わせたセットアップと
雨のマッチングを確認するように走行を開始します。

車両のABSアップデート後、初めての雨ということもあり、
ブレーキング時の挙動のチェックも兼ねた走行となりました。



7/15 PM TRA専有走行

このセッションから全車のタイム計測が開始され、
全エントリーのパフォーマンスが比較できるようになります。

天候は終始落ち着かず、雨量の安定しないセッションとなりました。
翌日の予選のコンディションも雨予報が見込まれたため、
雨のセットアップに注力し走行を続けます。
2分31秒599、C組11番手でセッションを終えます。

翌日朝の予選に向けてメンテナンスと車検を受けてDAY1は終了。



7/16 予選(C組9時45分～15分間)

いよいよ116台のエントリーから決勝進出の54台を決める予選が始まります。CVTクラスを除く105台のうち、通過できるのは各組上位16台の為、半数以上が予選落ちとなる厳しい条件が課されます。

A組の予選セッションは辛うじて天候は曇り、路面はーフウェットからドライに変化するコンディションで開始されました。このセッション、トップ車両は2分18秒011のタイムをマーク。

続いてB組の予選が始まります。こちらは徐々に小雨が降り始めますが、まだ路面はドライで進行中です。その間にトップは2分18秒097をマーク。終盤、急激な降雨により赤旗終了となります。

335号車が出走するC組は、B組終盤の雨で完全なウェットとなります。前日に組み立てたウェットのセットアップをベースに、終盤に路面が回復することを狙った調整を行い、周りとのタイミングを遅らせてコースインしていきます。

難しい路面の中、序盤に2分28秒652をマーク、最早5番手に滑り込みます。徐々に路面が回復する中、グリップするラインを探しながら更にアタックを掛けます。周りもタイムを上げていき、一時12位まで後退しましたが、最終周のアタックで2分27秒297と自己ベストを更新、C組7番手で無事に決勝進出を果たしました。

C組トップタイムは2分25秒845のため、3組のトップタイム順から決勝は総合21番手スタートとなります。



7/17 決勝(8時10分～8周)

晴れ予報とは裏腹に、朝方まで降った雨が残り、ウェットのレースとなりました。

8時頃から決勝レースのスタート進行が始まりますが、ギリギリまでレース中のコンディション変化を予想します。気温や太陽の状況、路面の濡れ具合から、後半はドライ寄りになると読み、グリッド上で最終調整を行います。

フォーメーションラップが終わると、いよいよ8週の決勝がスタートします。ウェット路面でのスタートダッシュが決まり、1コーナーまでに1台をパスしていきます。周りの車両も隙を伺って飛び込んで来るため、全く油断が出来ません。その後の100Rも、スライドしながらの攻防となり、僅かに他車と接触してしまいます。

他車も路面コンディションに苦戦する様子が伺えるため、集中して隙を狙います。そして最終コーナー立ち上がりで勝負を仕掛け、スリップを捕まえることに成功。2周目のストレートではスリップ合戦からの4ワイドを繰り広げます。1コーナー飛び込みまでに2台をパス、その後も前方の車両を狙います。

集団が隊列に変わり始めた3周目、ヘアピンの立ち上がりから300Rの加速勝負で更に1台をパスしポジションアップします。

続く4周目もコカ・コーラコーナーとダンロップの立ち上がりでそれぞれ1台をパス。路面の状態の良い部分を見極めながら、着実に順位を上げていきます。



7/17 決勝(8時10分～8周)

レースも折り返しとなる5周目、最終コーナーまでの間に前方の集団に追いつきます。前車との距離を見計らい、2速で立ち上がると加速勝負からうまくスリップに入り、コントロールラインまでにパスすることに成功します。

その勢いを保ちつつ、翌6周目のコカコーラコーナーで更に1台をアウトからパスします。徐々に後方との差が開いていくのが見えたため、前方を追うことに集中して周回しますが、最終周の8周目、惜しくも前方でバトル中の集団に追いつく手前でチェッカーとなりました。

レース中は抜きつ抜かれつが多く、パドックに戻るまでは順位が分からない状況でしたが、総合16位でフィニッシュ、その後裁定もあり、7ポジションアップの14位でレースを終えました。

決勝中のベストラップは2分25秒483、最終周に記録したものが全体4位のタイムとなり、決勝終盤のペースは狙い通りの結果となっております。

116台中14位という結果でレースを終えることが出来た一方で、目標としていたポイント獲得となる10位以内に入れなかったことが非常に悔やまれます。

次戦は8月20-21日の東日本シリーズ第5戦
ささ子レーシングのホームコースとなるスポーツランドSUGOでのレースになります。
富士以上にオーバーテイクが難しいコースのため、予選から上位進出を狙って頑張ります。



フォトギャラリー



Special Thanks (敬称略)



トータルサポートコンサルティング株式会社



次戦は8月20-21日 スポーツランドSUGO(第5戦)となります
2022年シーズンも引き続き
厚いご支援ご声援の程、宜しくお願い致します

